

かたらい

第95号

令和2年1月1日

発行 社会福祉 人 とちぎ健康福祉協会

～ 健康経営 みんなの力で あふれる笑顔 ～

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町3337-1

TEL (028) 622-2846

FAX (028) 621-1422

【U R L】 <http://www.kenkoufukushi.com>

【E-mail】 kenkoufukushi@arion.ocn.ne.jp



－第40回桜ふれあいの郷まつり－

年頭にあって



理事長

富田 哲夫

皆様、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年は、「とちぎ健康づくりセンター」及び「とちぎ生きがいづくりセンター」が、県の新たな指定管理期間の二年目として、利用料金のコンビニ収納など利便性向上のための新たな取り組みを始めました。また、桜ふれあいの郷の建替整備につきましては、二区はすでに着工し、三区についても入札契約が済み、間もなく着工する運びとなっています。職員の皆さんの毎日の仕事に関しては、働き方改革の一環として導入された、出勤管理システムの適切な運用や年休取得の義務化などに取り組まれていると思います。

我が国では急激な少子高齢化に伴う人手不足が言われており、当協会におきましても、新年度の新規職員採用については、例年よりも二か月程度早め、八月には内定を出したところですが、なお不足が見込まれるため、再募集をしております。

そのような中、利用者の方への質の高いサービスを提供していくためには、提供する側で働く職員の皆さんにとっても、生き生きとやりがいを持って働ける職場づくりが重要だと思っています。

そこで、今年度から来年度にかけて、「とちぎ健康福祉協会基本計画（三期計画）」に掲げた「給与服務制度等の見直しによる職員処遇の明確化」や「職員研修体系の整備」に取り組むこととし、「新たな人事管理制度」を構築して、協会の将来にわたる持続可能性を確保し、ますますの向上、発展を目指していくことといたしました。職員各位のご理解、ご協力をお願いする次第です。

今年二年が、皆様にとりまして、また当協会にとりましても、辛多く、実り多い一年となりますことを願っております。

行事あれこれ

栃木県障害者文化祭
〜カルフルとちぎ2019
〜ころのつどい〜

今年も秋晴れの十一月二日(土)に第二十四回栃木県障害者文化祭カルフルとちぎ2019ころのつどいが、とちぎ福祉プラザ・わかきアリーナで開催されました。

駒生園(支援業務課)では、利用者がリハビリの一環で制作した作品を展示し、会場に飾られた自分達の作品を見に行くのが毎年の恒例行事となっています。会場では、各施設の利用者の作品の展示や販売コーナー、模擬店などもあり、利用者の中には、他施設の作品に刺激を受け、今後の作品作りに



駒生園作品展示

『ポッチャ』の体験コーナーもあり、楽しみながら障害者スポーツへの理解を深めてもらう活動も体験してきました。



販売の様子

桜ふれあいの郷と清風園では、今年も屋外テントで、桜ふれあいの郷のパンや焼酎、清風園の草木染やタオルハンガーなど、各施設の利用者の皆さんが作った作品を販売しました。毎年大盛況の焼きそばは、今年も長蛇の列が絶えず出ていて、焼き手の職員は、休む暇もなく焼き続けていました。

今回も多くの参加者が来場し、盛大な福祉のお祭りとなりました。今後も地域の方や各施設の交流の場として、障害者文化祭が活用され、福祉の輪も広がっていくけいばと思います。

令和元年度 わかくさ秋祭り

わかくさ

令和を迎えて初めての秋祭り、天高く澄んだ秋空の下...といきたかったところですが、朝からのどつちつかずの天気、予定を縮小しての実施となりました。

そんな天気のご機嫌をうかがいながらのお祭りの中でも、子ども達は元気いっぱい。昨年から好評のエアー遊具では子ども達が汗だくになりながら何度も跳ね回り、サッカーゴールにシュートを決め、的あてに夢中になる姿がありました。木工教室も毎年のお楽しみ、一生懸命やすりをかけて自分だけの木工作品に仕上げています。

お母さん方は、模擬店の唐揚げや焼きそばに舌鼓を打ち、子どもと一緒にポップコーンを楽しみました。

わかきさの秋祭りは様々な方々のご協力を得て開催されます。特に全本田労連の皆様には、会場設置時からお力添えをいただき、栃木県警の皆様には、昨年に引き続き白バイの演技や乗車体験、音楽隊の演奏、カラーガード



隊の素晴らしい演技をご披露いただきました。多くの皆様に、暖かく見守られ、支えられ、母子の幸せな時間を過ごすことができました。

第四十回桜ふれあいの郷まつり

桜ふれあいの郷

十月二十日(日)、第四十回桜ふれあいの郷まつりを開催しました。施設の建替えを控えスペースの都合から規模を縮小しなければならぬこと、新施設用地の一部にあった体育館を取り壊したため雨天時の対応が難しいことなど、多くの課題を乗り越えての開催でした。一時は開催を見送ってはとの意見も聞かれましたが、利用者みなさんが楽しめるイベントを継続させたいという思いから、各部署から選出された実行委員は知恵を出し合いました。実行委員会は、毎回、全体会と分科会(バラエティーショー、模擬店、駐車場の三グループ)を交互に行いながら進めました。分科会はグループリーダーが中心となって議論を進め、それぞれの検討結果は全体会で共有しました。そのため、実行委員会全体が活気づき、有機的につながったように思いました。

まつり当日は秋晴れに恵まれました。尊徳太鼓保存会による勇壮な演奏、利用者みなさんのカラオケ、職員有志によるヒゲダンスなど、手作り感いっぱいの会場は温かな雰囲気であふれていました。

利用者みなさんに楽しんで頂けただけでなく、職員が桜ふれあいの郷まつりを通して得た成功体験は、私たちに未来につながる何かをもたらしにくれたような気がしています。

家族交流食事会

清風園

十月五日(土)、清風園では、大勢のご家族が来園され、家族交流食事会が行われました。

利用者の方達は何日も前からこの日を楽しみにしており、当日は朝早くから目が覚めてしまう方、そろそろと落ち着かず玄関と食堂を何度も往復している方、ご家族が来園されるとそばを離れず、一緒に行動している方など予定の時間よりも早くご家族と一緒に食堂に来られ、席に案内されるのが待ちきれない様子の方もいました。

献立は赤飯、ビーフステーキ、刺身、エビチリ、餃子、アイスなど利用者の方達の希望が取り入れられたメニューでした。食事や飲み物が配膳されると歓声を上げる方もいました。



家族と一緒に食べる食事は久しぶりなため、話が花が咲き、皆さん時間を忘れていつもでもお喋りを楽しんでいました。利用者の方々も満面の笑みを浮かべており、とても楽しそうでした。

夏まつり・運動会

宝木保育園

今年度の夏まつり、運動会は両日共に天気に恵まれ、絶好の行事日和の中開催する事が出来ました。

七月六日(土)に行われた夏まつりでは、乳児組から幼児組まで、山車や神輿を担ぎ『わっしょい、わっしょい!』と元気な子どもたちの掛け声が園庭に響き渡り、催し物の尊徳太鼓の体験・音色でお祭ムードも活気づきました。



尊徳太鼓の体験

今年の模擬店には、カラフルな綿あめが登場!笑顔が溢れるお祭となりました。

十月五日(土)に行われた運動会は、年中児と年長児によるバルーンでスタート。素晴らしいオープニングを飾ってくれました。

乳児組の可愛らしい親子競技や、暑さも残る中、毎日一生懸命練習をしていた幼児組の競技で、会場も盛り上がりしました。かけっこやリレーで悔し涙を流しながら最後まで走り切る子どもたちの姿に感動しました。運動会が終わると達成感でキラキラ輝く子どもたちの笑顔が見られました。

両行事共に、たくさんの方々のご協力の下、素敵なものになりました。

第三十二回全国健康福祉祭

和歌山大会開催

事業企画課

今年の「第三十二回全国健康福祉祭和歌山大会」(愛称…ねんりんピック紀の国わかやま二〇一九)が、令和元年十一月九日(土)～十二日(火)の四日間、和歌山県内二十一日町で開催されました。

栃木県からは、五月に開催された「ねんりんピックとちぎ二〇一九」の成績優秀者の中から二十種目百四十三名を派遣し、美術展にはシルバー作品展応募作品から日本画・洋画・彫刻・工芸書・写真の六部門へ十二点の優秀作品を出品しました。

十一月九日(土)に紀三井寺公園陸上競技場で開催された「総合開会式」では、爽やかな秋晴れの中、栃木県代表として日々練習を重ねてきた選手達が堂々と入場行進を行いました。行進中、和歌山県の地元の小中学生たちから「栃木県頑張れ」という応援を受けて、選手たちはいちこの紙風船を振って、選んてました。



総合開会式 入場行進

メインアトラクションでは紀の国わかやまの四季を表現したダンスや演奏のパフォーマンスがあり、選手から歓声があ

がりました。十一月十日(日)～十一日(月)にかけて行われた種目別交流大会では、概ね天候にも恵まれ、卓球、テニス、バタック、弓道、サッカー、ソフトバレーボールが団体として優秀な成績をおさめました。個人では、ゴルフが全国準優勝、マラソン、水泳、将棋、健康マージャンの選手が続々と入賞しました。

栃木県からは六十歳～八十四歳の選手が参加し、なぎなたの選手(七三歳)が、種目別の男性の最高齢者として表彰され、全国に「元気なとちぎ」をアピールできました。

美術展は、和歌山県オリジナルイベントのセレクションアートと同時開催され、栃木県の作品は工芸の部で銀賞を受賞しました。

栃木県選手団の皆様からは、「良い経験になった。」「また挑戦したい。」という声が上がりました。チームの絆が深まったことはもちろん、各種目の垣根を越えて、再会を誓い合った選手もいました。和歌山県各市町のおもてなしや歓迎、大会期間中の他県との交流など心温まる思い出となりました。

これからも、「ねんりんピック」を通して高齢者の活躍の場を広げていきたいと思っています。



▲大会期間中、元気なとちぎをアピールしてきました。

桜ふれあいの郷

建替整備進捗状況

前回の掲載にて、体育館の解体工事が無事に完了したことを報告させていただきましたので、その後の進捗状況について報告します。

桜ふれあいの郷は建設規模が大きい
ため、入札に関しては、工事を二つに
区分をしての実施となります。



一つ目の
工事区分の
入札は昨年
の九月に執
行され、施
工業者が決
定しまし
た。その
後、十月に
工事開始に
先立ち、建
設予定地に
て地鎮祭が
執り行われ、厳粛な
雰囲気の中
で新たな施
設への期待
感がさらに
高まるとも
に、工事の
安全を祈
願し、建替
えへの第一



歩を無事に踏
み出すことが
できました。
十一月より
工事開始と
なり、現在で
は仮設事務所
も完成し、杭
工事等の建物
の基礎となる
部分を施工し
ているところ
です。
また、二つ
目の工事区分
についても
十二月に入札
を終え、落札

業者が決定しました。
今後は、各施工業者と定期的に打合
せを行い、工事の進捗状況を管理して
いきます。打合せに関しては、建設分
野の専門的な知識が必要であり、苦労
する面もありますが、令和二年末の完
成を目指し、また、より良い施設を完
成させられるよう努めて参ります。
いよいよ、長期間におよぶ桜ふれあ
いの郷建替整備が本格的に始まりまし
た。現地での工事開始に伴い、利用者
の方々や勤務されている職員の方々
にはご面倒をお掛けしてしまうこともあ
るかと思いますが、引き続き、この
「かたらい」を通じて皆さんに進捗状
況をお伝え出来ればと思います。

健康の森 ワンポイントアドバイス

ロコモチャレンジ

骨・関節・筋肉などの運動器の障害によ
り、立つ・歩くといった機能が低下してい
る状態を「ロコモティブシンドローム」略
して「ロコモ」といいます。進行すると将
来、介護を要するリスクが高くなります。

◎立ち上がりテストで下肢筋力の測定に
チャレンジ!!

①キャスターが付いていないイスに座り、
胸の前で両腕を組みます。反動をつけずに
両脚で立ち上がり、三秒間保持します。

②両脚で立ち上がった後、次は片脚でテス
トをします。①の姿勢に戻り、左右どちら
かの脚を上げます。反動をつけずに片脚で
立ち上がり、三秒間保持します

◎判定

どちらか一方の片脚でイスから立ち上
がれないと「ロコモ度1」と判定されます。

これは、筋力やバランス能力が落ち、移動
機能の低下が始まっている状態です。左右
とも、片脚で立ち上がった後も、定期的に
立ち上がりテストを行い、移動機能の状態
を確認しましょう。

結果はいかがでしたか？いつまでも自分
の足で歩き続けていくために、運動を習慣
化し、今からロコモ予防に取り組みましょ
う!!



おめでとう!

理事長への意見・提案

職員の皆さんからのメール
をお待ちしています。
(必ず氏名・連絡先を記入し
てください。)
E-mail: kenkou01@
kenkoufukushi.com

☆職員提案制度の仕組みをつ
くりましたので、そちらにも
是非ご提案下さい。
E-mail: kenkou02@
kenkoufukushi.com



編集後記

かたらい通信員や執筆して頂いた皆
様のおかげで、かたらい第九十五号を
刊行することができました。ご協力あ
りがとうございました。